

WBCの放映権は独占禁止法に違反しないか？

WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の放映権

独占が直ちに独占禁止法違反とされる可能性は低いと考えられます。

現在、2026年大会の日本国内放映権をNetflixが約150億円で独占取得したことが大きな議論を呼んでいます。しかし、法的観点からは以下の整理が一般的です。

独占禁止法との関係

- **私的独占・不当な取引制限:** 放映権は主催者(WBCI)が保有する知的財産のようなものであり、それを最高値で入札した事業者に売却する行為自体は、自由な市場競争の結果とみなされます。
- **排除的行為の不在:** 他の放送局が購入を禁止されたわけではなく、価格高騰により[日本のテレビ局が対抗できなかった](#)という背景があるため、不当に他社を排除したとは認められにくい状況です。

議論の焦点:ユニバーサル・アクセス権

独占禁止法とは別に、国民的関心が高いスポーツイベントを誰もが視聴できる権利(ユニバーサル・アクセス権)の観点から議論がなされています。

- **現状の課題:** 日本には現在、五輪やWBCのような大会を地上波で放送することを義務付ける法的強制力はありません。
- **社会的な影響:** 視聴に[有料サブスクリプション加入が必須](#)となることで、経済的理由やネット環境により視聴できない層が生まれる「情報の格差」が懸念されています。

なお、過去にはNPB(日本野球機構)が特定の放送局の取材パスを没収した際に、[公正取引委員会が独禁法違反の恐れ](#)として警告を出した事

例がありますが、これは「取引の拒絶」に近い性質のものであり、純粋な放映権の競り合いとは性質が異なります。

WBCの放映料は何故そんなに高い？

WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の放映権料が高騰している主な理由は、

大会のブランド価値が世界的に向上したこと、巨額の資金を持つ動画配信サービス(Netflixなど)の参入が重なったためです。

特に2026年大会では、日本向けの放映権料が前回(2023年)の約30億円から約150億円へと5倍近くに跳ね上がったとされています。

高騰の主な背景

- **圧倒的な視聴率とブランド価値の向上**
2023年大会での日本代表(侍ジャパン)の優勝や大谷翔平選手の活躍により、日本国内で視聴率50%近くを記録する「お化けコンテンツ」へと成長しました。これにより、主催者のMLB側が強気の価格設定を行うようになりました。
- **動画配信サービス(OTT)との競争**
莫大なコンテンツ予算を持つNetflixが、新規会員獲得の目玉としてスポーツのライブ配信を強化しており、従来のテレビ局(民放)が提示できる金額(約30億円程度)を大きく上回る金額を提示したことで、地上波での放送が困難になりました。
- **ライブスポーツの希少性**
「後で見ればいい」ドラマや映画とは異なり、ライブスポーツは「その瞬間」に見る必要があり、広告やサブスクリプション加入を促す力が非常に強いいため、世界的に放映権の価値が高まっています。
- **アメリカ主導のビジネス論理**
WBCはMLB(メジャーリーグベースボール)が中心となって運営されており、徹底した経済的合理性(収益最大化)に基づいて放映権が販売され

ます。そのため、長年大会を支えてきた日本のテレビ局への配慮よりも、高値を提示した企業が優先される仕組みになっています。

2026年大会はNetflixが独占配信を行っていますが、一部のラジオ放送などは無料で提供されるといった動きも見られます。

WBCに出場すると選手は幾ら貰える？

WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)に出場する日本代表(侍ジャパン)の選手が受け取る報奨金は、大きく分けて「大会の賞金(山分け分)」と「NPBからの出場給」の2つがあります。

2026年大会の最新情報に基づくと、選手1人あたり**数百万円～1,000万円超**が目安となります。

1. 大会賞金の分配(2026年大会の例)

WBCは勝ち進むほど賞金が積み上がる仕組みです。2023年・2026年大会の賞金構成は以下の通りです。

- **本大会出場**: 30万ドル(約4,500万円)
- **1次ラウンド1位通過**: +30万ドル(約4,500万円)
- **準々決勝進出**: +40万ドル(約6,000万円)

成績	賞金分配 (1人分)	NPB報酬等	合計(目安)
優勝	約700万円	約200～400万円	約900～1,100万円
ベスト4	約350万円	約200万円	約550万円
1次R敗退	約70万円	約200万円	約270万円

メジャーリーガーや国内トップ選手にとっては年俸(数億円～数十億円)に比べると少額ですが、選手にとっては「世界一の称号」という名誉が最大の報酬といえます。

※1ドル=150円で換算。為替や正確な分配人数により変動します。

- **準決勝進出**: +50万ドル(約7,500万円)
- **決勝進出**: +50万ドル(約7,500万円)
- **優勝**: +100万ドル(約1億5,000万円)
- **全勝優勝時の総額**: 約300万ドル(約4億5,000万円)

この賞金総額は、慣例として「選手・コーチ陣」と「NPB(日本野球機構)」で**50%ずつに折半**されます。

- **優勝した場合**: 約2億2,500万円を選手ら30～40名で分けるため、1人あたり約**600万～750万円**ほどになります。

2. NPBからの「出場給・報奨金」

大会賞金とは別に、NPBから選手へ直接支払われる手当があります。

- **出場報酬**: 2026年大会では約**200万円**(前回から微増)と報じられています。
- **優勝ボーナス**: 2006年大会など過去の例では、世界一達成時に別途**200万円**の上乗せが決定したケースもあります。

まとめ: 選手がもらえる合計額(概算)